

平成21年 5月 22日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18520202
 研究課題名（和文） プルースト草稿資料における固有名の調査および索引作成
 研究課題名（英文） Study on the names in Marcel Proust's manuscripts

研究代表者
 和田 章男（WADA AKIO）
 大阪大学・文学研究科・教授
 研究者番号：00191817

研究成果の概要：マルセル・プルーストの草稿帳全75冊の固有名調査を行い、人名、地名、作品名から成る総合索引（Index général des Cahiers de brouillon de Marcel Proust）をフランス語により作成した。実在の固有名に対して補助情報を記載したのみならず、架空名に関しては、その変遷の過程を記し、『失われた時を求めて』の生成研究に資する索引とした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,600,000	0	1,600,000
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	330,000	3,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学

キーワード：フランス文学、プルースト、失われた時を求めて、草稿、生成研究、固有名索引

1. 研究開始当初の背景

(1) 1970年代以降、フランス国立図書館に所蔵されているマルセル・プルーストの草稿を元に、『失われた時を求めて』の生成過程の研究が世界的な規模で行われてきた。報告者は1986年に *L'évolution de « Combray » depuis l'automne 1909* という標題の博士論文をパリ・ソルボンヌ大学に提出。特に草稿帳の執筆順および年代設定に関して通説を大幅に変え、1909年から1911年にかけての草稿分類において成果を挙げた。

(2) 2004年にプルーストの全草稿のマイクロ・フィルムを大阪大学文学研究科において購入した。

(3) 日本においてもプルーストの草稿を調

査することが可能になったことに伴い、草稿帳の固有名索引を作成することが研究者にとって有用であることから、本研究を開始することとなった。このような総合索引は世界初のものとなる。

(4) 小説の作中人物の名前および地名の変化は草稿の執筆順および年代設定の上で大いに有効であるため、固有名索引は草稿分類にも資することになる。

(5) 世界各国の専門家約20名（報告者も参加）の協力によって、プルースト草稿帳75冊をファクシミリおよび転写による刊行を計画し、カイエ54が昨年刊行された。この刊本には作品生成に関連する詳細な注を付けることになるが、この作業に対しても固有

名索引が極めて有用なものとなる。この出版が完成したときには、固有名等の索引が作成されることになるが、完成には 20 年以上が見込まれるため、現時点において本課題はきわめて有効である。

(6) 日本人研究者約 40 名が協力して 1998 年に刊行したブルースト書簡集総合索引の作成に、報告者は中心メンバーとして参加した経験を有しており、索引作成において留意すべき点を心得ていることも、本課題を取り組む上で有効である。

2. 研究の目的

(1) ブルースト草稿帳 75 冊に登場するすべての固有名(人名、地名、作品名)の総合索引を作成すること。

(2) 上記の総合索引は研究者が草稿を調査する際に極めて利便であること。

(3) 小説の作中人物および地名に関して、変遷の過程を記すことにより、『失われた時を求めて』の生成研究に利すること。

(4) 文学作品を同時代の文化的・歴史的コンテクストに位置づける研究が昨今中心的な研究課題となっていることに伴い、草稿中に現れる実在名の調査はより実証的に作品と同時代の文化事象を関連づけることが可能になること。

3. 研究の方法

(1) 市販のソフト(「Access」)を用いてデータベースを作成した上で、フランス国立図書館によって付けられたカイエ番号、フォリオ番号に従って、ブルーストの自筆文字を解読しつつデータを入力する。

(2) 草稿の紙面上の位置を明確にするために「余白」「加筆」等の記号を付す。

(3) 人名、地名、作品名の 3 つのカテゴリーに分類する。

①「人名」のカテゴリーには実在名、架空名をともに含める。実在名に関しては、事典、インターネット等により特定するとともに生没年、職業等を補助情報として記載する。『失われた時を求めて』以外の登場人物名については、小説、劇、オペラ等の作品名を付す。固有名のみでなく、特定できる家族名、職名も含める(「母」「医師」など)。同じ人物の場合でも、様々な呼称をそれぞれ独立して掲載し、送り記号によって同一人物であることを示す(例: Guermantes (Mme de) = Guermantes (comtesse de/duchesse de), Gilberte = Swann (Mlle))。

②「地名」のカテゴリーには実在名、架空名を含めるとともに、施設名(「ルーヴル美術館」等)、組織名(「アカデミー・フランセーズ」等)も収録する。パリ、ヴェネツィア、

コンブレ等の重要な町に所属する地名はそれらの町名の中に含める。さらに《parisien》, 《français》などの地名を元にした形容詞、および《Français》, 《Juif》のような住民や民族も含める。

③「作品名」には小説、演劇、絵画、音楽等の作品名のみでなく、新聞、雑誌のような定期行物も収録する。

(4) 『失われた時を求めて』に登場する人物名、地名に関しては、先立つ名称、修正後の名称を矢印(→, ←)によって記載し、生成過程を示す(例: Montargis (→Saint-Loup), Saint-Loup (←Montargis))。

4. 研究成果

(1) ブルーストの草稿帳全 75 冊の固有名総合索引(Index général des Cahiers de brouillon de Marcel Proust)を作成した。人名 3044 件、地名 1124 件、作品名 406 件、合計 4574 件の項目数となった(データ数は約 3 万)。世界中の研究者に資するためフランス語によって執筆・作成した。100 部印刷するとともに、PDF ファイルによりインターネット上で公開する。

(2) 小説の作中人物および地名に関して、変化の過程を補助情報として記載した。これを元に、主要な作中人物の名称の変化および形成過程に関する解説を付した。同内容を 2007 年 12 月の生成研究国際学会にて口頭発表した(刊行予定)。

①「ゲルマント Guermantes」と「スワン Swann」というブルーストの小説において最重要の名前は当初より確定しており、「ゲルマント家の方」と「スワン家の方」という二つの方角が作品構造の根本として確定している。一時期「ガルマント Garmantes」という名を使用するが、これは歴史的名称である「ゲルマント」の関係者が生存するかもしれないことに留意したものである。また「ゲルマント」にはオレンジ色、「スワン」には白色という共感覚に基づく発想が隠されており、象徴主義的な側面も指摘できる。さらには「ゲルマント」がドイツ、「スワン」がイギリスという他国へのコノテーションを持っていることから、「コンブレ」という架空の田舎町が国際的なスケールを帯びていることも指摘できる。

②決定稿においても草稿においても最も頻度数が高い主要登場人物アルベルチヌの前身は「マリア」とされているが、アルベルチヌが草稿に初めて登場した時には、マリアとは別人物として構想されており、同じ草稿中に両者が並存していることを明らかにした。

③決定稿において登場回数が多い上位 25 人の作中人物に関して、その名前の変化過程を

年代順に記した表を作成した。1909 年秋から 1910 年初めにかけては少女たちの名前に多くの変化が見られるが、これは当時、「恋愛」のテーマに関わる物語の執筆に専念していたことを証する。1910 年初頭から春にかけては、架空の作家、画家、音楽家の名前が登場かつ変化してゆく。これは「芸術」のテーマが作品化されるとともに、実在の作家を対象とした『サント=ブーヴに反論する』という仮題を持っていた批評的作品から芸術をテーマとする小説への変化を反映している。さらに 1913 年末から 1914 年にかけて、同性愛の女性アルベルチヌが登場するとともに、シャルリュス、サン=ルーなどの男性同性愛者の名前も変化してゆく。既に内包されていた「ソドムとゴモラ」のテーマが独立し、大きく発展していったことと密接に関連している。このように作中人物の登場、およびその名前の変化は、作家がどのようなテーマに基づいて創作していたかと深く関わっていることが明らかになった。

(3) 実在の人物名に生没年、職業を補助情報として記載するとともに、頻度数に基づく、統計表を付した。2009 年 4 月にプルースト生成研究に関する国際学会にて作家、画家、作曲家の統計表に基づく分析結果を口頭発表した(刊行予定)。学会の折、報告書として作成した草稿帳総合索引を配付するとともに、フランスの専門家にも 20 部数送付した。今後の研究に大いに資するものとして大きな反響を得た。

特に作家名の頻度数を分析した結果、以下のことが明らかになった。

①中世、ルネサンス時代および 18 世紀の作家への言及は極めて乏しいこと。これは書簡集における作家言及の頻度数とも一致しており、百科全書的とも言われるプルーストの小説にも作家の好悪に基づく偏向、および時代の傾向が反映していると思われる。

②ラシーヌ、モリエール、セヴィニエ夫人、サン・シモンなど 17 世紀の古典主義作家の頻度数は草稿から決定稿にかけて増加する傾向にある。これは 19 世紀末の第三共和制時代の学校教育および家庭教育が、普仏戦争敗北後の愛国主義政策を反映しつつ、フランス固有の古典主義文学を重視したこととも関連しつつ、同時代のジッド、ヴァレリーらと同様に、「古典復興」と言われる当時の潮流の中に位置づけることができる。教育によって古典主義作家・作品の知識が共有されていることもまた小説におけるそれらの引用や言及が読者にとって理解可能となる。

③ロマン主義時代の詩人の言及も作品生成過程において増える傾向が見られる。プルーストの小説が少年期から壮年期に至る形成物語という形態を持つことにより、乗り越えられるべきものとしてロマン主義作家の登

場の意味があるとみなせる。

④19 世紀後半のレアリスム文学に属する作家への言及は極めて少ない。ゴンクールのみが例外で、レアリスムの皮相さの典型の例として物語の中に組み入れられることになる。

⑤草稿においては、同時代の作家への言及は極めて多いが、決定稿に至るにつれて大幅に削除されてゆく傾向が顕著である。プルーストは同時代の文学・芸術の動向に敏感であり、かつインスピレーションの源泉ともなりながらも、後世の読者をも念頭に入れつつ、作品を普遍性の高いものとするために、同時代人にしか知られていない作家の痕跡を消していったと考えられる。このことは画家や音楽家に関しても同様の現象が見られる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①和田章男、生成研究の方法と課題—プルーストを中心に—、『テキストの生成と変容』、大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究 研究成果報告書、pp. 13-18、2008、査読無し

②和田章男、Proust et Leconte de Lisle : un autre poète dans le *Contre Sainte-Beuve*, *GALLIA*, No. 47, pp. 69-76, 2008、査読有り

③和田章男、Proust et le paysage de Camille Corot, 《Proust sans frontières》, *Marcel Proust 6*, Lettres Moderne Minard, pp. 121-132, 2007、査読有り

④和田章男、プルーストとネルヴァル批評、『大阪大学大学院文学研究科紀要』、第 47 巻、pp. 27-45、2007、査読無し

[学会発表] (計 6 件)

①L' apparition des noms réels dans les Cahiers de Proust、国際シンポジウム《Proust en son temps : Contextes culturels d' une genèse romanesque》(東京日仏会館)、2009 年 4 月 18-19 日

②1913 年の二つの冒頭句、シンポジウム「いかに物語を語り始めるか—小説の冒頭句 incipit をめぐって—」、大阪大学フランス語フランス文学会(大阪大学)、2008 年 3 月 8 日

③プルーストとルコント・ド・リール—『サント=ブーヴに反論する』におけるもう一人の詩人— 関西プルースト研究会(京都大学)、2007 年 12 月 22 日

④La formation des noms de personnages

dans la genèse de *À la recherche du temps perdu*, Colloque franco-japonais sur la genèse de l'œuvre dans la littérature française 《Comment naît une œuvre littéraire ?》— Brouillons, contextes culturels, évolutions thématiques — (関西日仏学館), 2007年12月7日

⑤「生成研究」の方法と課題—プルーストを中心に—、大阪大学文学研究科広域文化表現論講座共同研究「テキストの生成と変容」(大阪大学)、2006年6月15日

⑥20世紀における旅とエクリチュール—「旅」と「旅行記」の終焉、日本フランス語フランス文学会春季大会ワークショップ「旅とエクリチュール」(慶応義塾大学)、2006年5月20日

[図書] (計 4 件)

①Index général des Cahiers de brouillon de Marcel Proust、科学研究費成果報告書、2009、総ページ数134

②『テキストの生理学』(柏木隆雄教授退職記念論文集)、朝日出版社、pp. 543-554、2008.2

③フランス文学小事典 (共編)、朝日出版社、2007、総ページ数384

6. 研究組織

(1) 研究代表者

和田 章男 (WADA AKIO)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：00191817

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし